

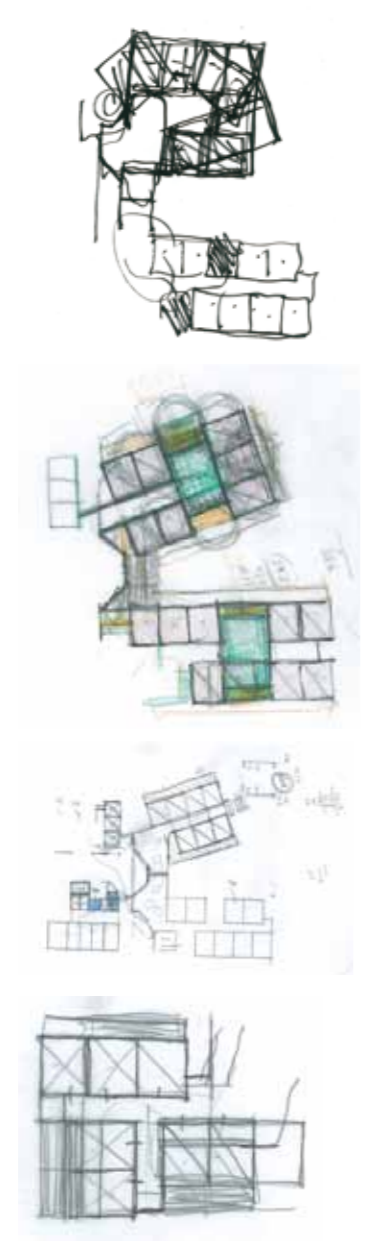
サポートセンター川崎 ツウイング



商業地域に隣接、住宅地との接点にブロックごとに分割、ファサードに凹凸をつけ軽快感を造り、圧迫感を与えないスケール

サテライト特別養護老人ホーム 小規模多機能型居宅介護施設

1階



設計主旨・施設概要

散歩しながらふと考えた。四角四面の世の中は面白くない。決まりきったことだけでは窮屈だ。同じ素材でも組み合わせ方を変えたり分解することで面白きタブロー(作品)が出来ることがある。また視点を変えることだけで見え方や風景が変わってくる。視座(思座)を変えて視線(思線)を変えれば、嫌なことばかりではなく楽しきことの何と多きことか!そんな視点(思点)が求められている。「老人」と言う言葉を肉体的な衰えから使われているとすれば、経験量や思想的には「豊人」である。まさに「ツウイング(Twing=Twin+Wing)」である。「ツウイング」をスウィングさせてみる。同じ四角形でも角度を振るだけで「スクエア」から「ダイヤモンド」になる。特にデザインは人間の視線を通しての感度を高めるもの。老人を「豊人・ダイヤモンド」になぞらえて、デザインモチーフとし、当サポートセンターの設計を試みたものである。

長岡市川崎地区に複合型サービスの『サポートセンター川崎』が2012年3月に完成。

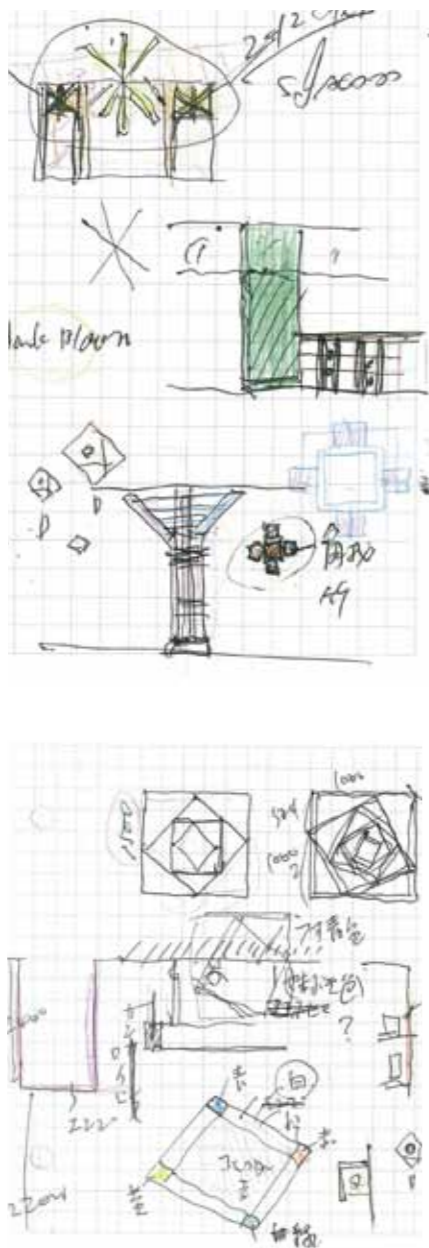
- 1F
- ・地域密着型小規模老人福祉施設
 - ・サテライト型特別養護老人ホーム川崎
 - ・小規模多機能型居宅介護川崎
 - ・カフェテラス・キッズルーム
- 2F
- ・在宅支援型住宅(10室)

より自宅から近い所での生活の維持や住み替えによって、家族や地域住民との「馴染みの関係」を維持して生活して頂きたい、という考えをコンセプトに誕生した



在宅支援型住宅(10室)

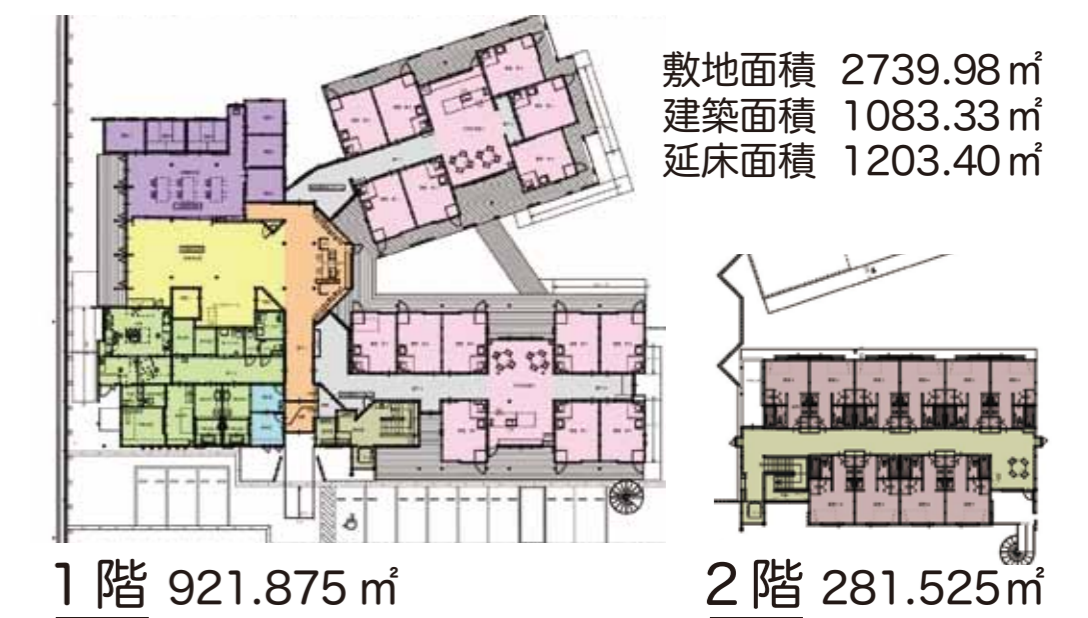
2階



ツウイング(Twing)

サポートセンター川崎 ツウイング
(Twing=Twin+Wing)

- ・ソフト：介護者と被介護者の関係
- ・ハード：心地よい距離感を保つ



社会をつくるには最小限「我と汝」のTwinファクターが必要になる。介護施設においては「介護者と被介護者」の関係である。被介護者にとつての満足度は如何に快適にケアされるかであり、介護者にとつてはケアする行動に掛かるストレスを如何に軽減するかである。共通の言葉として快適性を追求される。施設はAmenity! ComfortableでありPleasantでなければならない。被介護者のComfortableは、介護者のPleasantでなければならない。それをツウイングと呼ぶこととする。介護者間や被介護者間でも快適な距離感が必要である。ワンブロックで固定されるよりもTwinに配置することで心地よい距離感を保つことが出来る。これこそハード的にもソフト的にも求められる「Twing」の真骨頂である。

四角(スクエア)と菱形(ダイヤモンド)

四角を回転させ少々圧縮を加えると菱形になる。同じ形が見方によって変わる。菱形のダイヤモンドはこの世では価値がある。四角形の中に入りつつある老人がダイヤモンドに輝けば、「老人から豊人へ!」また一歩昇昇することになる。

